

特別セミナー 1914年桜島噴火災害に学ぶ ～地震学・火山学が減災に貢献できること～ の開催

日時 平成27年1月30日(金) 13時30分～15時30分

場所 東京大学地震研究所 第1会議室 (東京大学地震研究所2号館5階)

講師 柳川喜郎氏(元NHK解説委員)

主催 東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会

最近復刻された「桜島噴火記」の著者で、元NHK解説委員の柳川喜郎氏を招き、上記の特別セミナーを開催した。講演では、1914年桜島大正噴火、1991年雲仙普賢岳火砕流災害、2014年御嶽山噴火を例に、マスコミの立場から地震や火山研究の在り方についてお話し頂き、その後、参加者を交えて議論した。

【プログラム】

13:30 - 13:35 開会挨拶, 講演者紹介

13:35 - 14:50 講演 柳川 喜郎 氏

「桜島・雲仙・御嶽ー噴火災害を考える 科学と社会の INTERFACE」

14:50 - 15:10 論点整理

雲仙普賢岳の火砕流災害ー研究者からの視点(九州大学 清水 洋)

学術としての地震・火山研究の役割(東大地震研 平田 直)

15:10 - 15:40 総合討論

15:40 閉会

【開催趣旨】

100年前の桜島噴火では、前兆現象が観測されたものの、結果的には58名の死者を出す災害へと発展した。2014年御嶽山の噴火災害を経験し、観測研究の成果による減災の貢献が求められている現在、改めて桜島噴火災害に我々は何を学ぶべきか。NHK記者として、当時の測候所長の日記をはじめ諸資料をもとに克明に噴火災害の状況を再現した柳川喜郎氏を迎え、特別セミナーを実施する。この特別セミナーで、地震学や火山学がどのように災害の軽減に貢献できるかを研究者自らが考える機会を持ちたい。

参加者(受付をした人)

74名

研究者 53名(地震研28名, その他20名, OB 5名)

官庁 7名

マスコミ 5名

その他 9名

以上